

大野正夫：韓国ソウルで開催されたアジア-パシフィック藻類フォーラム

M. Ohno: The report of Asia-Pacific Phycological Forum
5-8 September 1993, Seoul, Korea

昨年フランスで開かれた第14回国際海藻シンポジウムの期間中に、韓国ソウル大学の In Kyu Lee 教授から、アジアの藻類研究者が集う Forum を韓国で開催したいと言う話が発端になり、「Asia-Pacific Phycological Forum」が、1993年9月5日から8日にかけてソウル大学主催、Korea Research Foundation や Korea Science and Engineering Foundation などの後援のもとに、ソウル大学で開催された。

Forum は、ソウル市中心から地下鉄で30分ほどの山間にある広大なソウル大学キャンパスのなかの Sunkyong House と言う会議場で2日間にわたって行われた。この Forum には、台湾から Chiang 教授、フィリピンから Trono 教授、タイから Lewmanomont 教授、インドネシアから Satarni 女史、オーストラリアから King 教授、日本から有賀祐勝、川井浩史に筆者らがアジア・オセアニアから招待された。中国から数名の参加者が予定されていたが、ビザのトラブルで急に出国出来なくなった。しかし、ちょうど直前の横浜で開かれた第15回国際植物科学会議に出席した米国の Lewin 教授の飛び入りの参加があり、カリフォルニア大学の Silva 教授、O' Kelly 教授（米国）、Prud'homme van Reine 博士（オランダ）、Taejun Han 博士（イギリス）の講演があった。韓国からの講演者は Yong Pil Lee 教授、Chul Hyun Sohn 教授であり、この Forum の参加者は、70名ほどであった。当初韓国からの参加者を多く予定していた。しかし夏休み中で集まりが悪かったが主要な藻類研究者は参集したようであった。

充実した講演

In Kyu Lee 教授の開会式のスピーチの後、基調講演の Silva 教授は、分類学の方法論を歴史的に話された。講演の多くは総説的な内容が多く、微細藻類、海藻の分類学、遺伝学からホンダワラ類の生態学、海藻の養殖まで幅広い分野にわたった。しかし一つの講演に40分の時間が充てられていたために、聞く側も専門外の内容を理解する時間があり、筆者には楽しい集会であった。いままで国際シンポジウムに出席し、20分

刻みの慌ただしい講演を聞きつづけて、消化不良のまま終り、少々虚しい思いをすることもあったが、今回予定講演者の不参加の効用とも言えるが、参加者にはひとつの講演に十分な時間がとってあり、満足した集会ではなかったかと思う。

筆者は韓国の藻類研究者との交流が今まであまりなく、どのような仕事をしているか興味をもって参加し、名前を聞くとともに何をテーマにしているかを尋ねた。韓国の藻類研究者は、In Kyu Lee 教授の教室の出身者が多いようであり、系統分類学の分野の研究者が多いと思っていたが、特に若い研究者は、生態から生理・生化学まで幅広いテーマの仕事をしていた。帰国後、韓国藻類学会誌のページをめくると、ほぼ半分が植生、群落生態、環境と藻類の成育との関係や生理・生化学で、日本藻類学会誌よりも内容はバラエティーに富んでいるのを知った。大学院生、30代、40代の若い研究者が多いという印象も強くもった。中堅グループは、米国や海外での研究生活の経験者が多く、英会話は達者で、国際化は日本の藻類学会より進んでいるように思えた。

Asian Pacific Phycological Association の発足

この Forum のもうひとつの課題であったアジア・オセアニア地区の藻類研究者が一堂に集まる研究発表集会を、定期的に持とうということについて最後に討議された。有賀祐勝教授がその会の会長に選ばれて、内容、期間や運営方法について議論された。結論として、この集会を Asian Pacific Phycological Forum と呼ぶこととし、その母体を Asian Pacific Phycological Association とすることになった。集会は今回とほとんど同じ名前に落ちてしまったが、次回を第1回とし、3年周期で国際海藻シンポジウム (ISS) と国際藻類会議 (IPC) の間の年に開くこと、運営は国際海藻シンポジウムに準じる方法で行い、Association 運営には各国の代表1名ずつが参加する Council が当たり、当分の間会長の有賀教授が責任をもつこと、会長の下に Secretary と Treasurer をそれぞれ1名置くこと、講演の内容は学会誌あるいは国際学術雑誌の特別



Fig. 1. Participants of Asia-Pacific Phycological Forum in Korea.

A: Ik Kyo Chung, In Kyu Lee, Jin Ae Lee, Gwang Hoon Kim, Sung Min Boo, Young Hwan Kim. B: Soon Ae Yoo, Khanjanapaji Lewmanomont, Robert J. King, Mrs. Lewin. C: Chul Hyun Sohn, Hae Bok Lee. D: Jin Hwan Lee, Yong Pil Lee, Chul Hyun Sohn, Hae Seung Han. E: Mrs. Han, Taejun Han, Hiroshi Kawai, Gwang Hoon Kim. F: M. Ohno, P. C. Silva, R. Lewin, Y. Aruga, I. K. Lee, W. F. Prud'homme van Reine, Y. M. Chiang, S. M. Kim

号の形で印刷公表していくことなどが決まった。第1回の Forum は、オーストラリアでの開催を希望し、King 教授がこの案を持ち帰って検討してもらうことになった。

この Forum では、参加者の多くはソウル大学のゲストハウスに宿泊したので、3泊の合宿のようであり、今までにない交流ができた。筆者は、川井氏に付

き合って夜の韓国の若手研究者との交流にも参加し、ほとぼる藻類研究に対する熱意にも接し、新しい友人も得て帰国した。

講演者と標題は次のとおり

Silva, P. C. (USA): Continuity, an essential ingredient of modern taxonomy

- King, R. J. (Australia): The taxonomy of Ulvaceae, Monostromataceae and Percursariaceae (Chlorophyta) in Australian waters
- Kawai, H. (Japan): Life history and systematic position of *Myelophycus* (Phaeophyceae)
- Prud'homme van Reine, W. F. (The Netherlands): The world of Sphacelariales–Sphacelariales of the world
- O' Kelly, C. J. (USA): Heterotrophic protists and the origins of photosynthetic eukaryotes
- Lewin, R. A. (USA): Prochloron: discovery, early history and phylogeny
- Aruga, Y. (Japan): Characterization and genetic analysis of the violet type pigmentation mutant of *Porphyra yezoensis* Ueda
- Lewmanomont, K. (Thailand): Monoline culture of *Gracilaria fisheri* (Xia & Abbott) Abbott, Zhang & Xia in Thailand
- Ohno, M. (Japan): Succession of seaweed communities on coastal structure
- Dodge, J. D. (United Kingdom): Biogeography of the plankton dinoflagellate genus *Ceratium*
- Lee, Y. P. (Korea): Taxonomy of the Rhodochortaceae, Rhodophyta, with special reference to the plants in the northwestern Pacific Ocean.
- Chiang, Y.-M. (Republic of China): The development sequence of marine red alga *Grateloupia flicina* in culture
- Boo, S. M. (Korea): Structure, reproduction and systematics of the red alga *Ceramium kondoi* in the field and in culture
- Trono, G. C. (Philippines): Studies on the management of *Sargassum* (Fucales, Phaeophyta) beds in Bolinao, Pangasinan
- Sohn, C. H. (Korea): *Porphyra*, *Undaria* and *Hizikia* cultivation in Korea
- Satari, R. (Indonesia): Some chemical characteristics of carrageenan from cultivated *Eucheuma alvarezii* Doty in Indonesia
- Han, T. (United Kingdom): Light and shade tolerance of early sporophytes of *Laminaria digitata* and *L. hyperborea* (Phaeophyta)

